

Y. I. 英語英文学科・2 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

小さい頃から英会話に通っていたことで昔から英語や異文化に興味があり、大学生になったら絶対に留学しようと思っていました。1 年生のはじめの方に協定留学の存在を知りました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

国際課の方に TOEFL CAMP を勧められ、参加しました。ひたすら英語の勉強をした記憶がありますが、同じく参加していた他学部の人々や同じ学部の先輩などと友達になり人脈の輪が広がりました。ネイティブの先生もすごくいい人たちで、すごく楽しかったのを覚えています。このキャンプを機に、協定留学をしたい！と言う明確な目標を持ちました。TOEFL CAMP で頂いた IELTS の参考書を使って勉強しました。少し高いですが、IELTS 公式の過去問集を買って勉強したりしました。学校が開いていた IELTS 対策講座にも参加しました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

2 年生から AES コースに入りました。AES コースとは英文科の中でも、もっと英語を極めたい、と英語に対して意欲的な学生が集まるコースです。AES コースでは先生がほとんどネイティブの先生に変わります。課題もレギュラーコースに比べれば、多いです。私はそのコースの中で、授業を必死に聞いたり、課題に真剣になったり、ただ当たり前のことをこなすことに必死に喰らいついていました。そうすると、自然に英語力は上がっていたと思います。ビザ申請や、予防接種などはなるべく早め早めをお勧めします。後になればなるほど、やらなければならない事も増えます。何かわからないことがあれば、国際課の方々がサポートしてくださるので安心です。

④ 現地到着後

家から一番近い関西空港から目的のシャーロットビル空港までの便が少なかったり、時間帯が微妙であったため、先に大阪から新幹線で成田空港まで行きました。成田→アトランタ→シャーロットビルの計 2 回のトランジットがありました。夜の 10 時ごろにシャーロットビル空港に着いたので、空港の近くのホテルで一泊しました。朝になると、MBU の方がホテルまで迎えにきてくれました。オリエンテーションは 1 週間ほどあり、朝早くから始まります。時差ボケや環境の変化の中でのオリエンテーションだったので、毎日すごく疲れしました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

私は語学学校や、特別な語学研修期間なしで、いきなり現地の学生に混じって受ける正規授業からのスタートでした。

◆ 授業内容、課題、試験

上記同様。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

大学周辺には大きなショッピングモールなどはありません。比較的、田舎です。大学から歩いて5分ほどに小さなダウンタウンがあります。アンティークショップや小さな映画館、アイスクリーム屋さん、カフェ、インド料理、メキシコ料理などのレストランがあり、MBUの学生であれば割引してくれたり、月に1回無料で最新の映画を見ることができます。小さい町ですがMBUの学生に優しい、ほんわかしたダウンタウンです。大学自体は、緩い丘の上にあり、階段が多いです。自然豊かで、リスやホタル、季節ごとの花を見ることができます。一般的なアメリカの大学と比べるとやや小さい大学ですが、その分授業も小規模で、学生へのサポートが厚いです。留学生であっても授業内で発言できる機会があると思います。

◆ 履修科目

・ ART 125: Introduction to Art Education

アドバイザーに勧められて履修しました。基本的に子供達に美術を教える先生になるための授業内容でした。ヨーロッパの美術の歴史を習ったり、実際に絵を描いたり、何か作ったりしました。学生は全員女子でした。留学生は私だけでしたが、先生が本当にいい人ですごく優しかったです。中間テストと期末テストがあります。9,000円ほどの費用がかかりました。

・ AS 106: Asian Civilization

留学生のアドバイザーがこのクラスの先生であり、最初は授業についていけるか心配であったため、このクラスを履修しました。基本的に日本を含めたアジア国のことを浅く広く勉強します（日本、韓国、カンボジア、中国など）。授業内では、日本人として今の日本のことを共有したり、先生に質問されることもありました。その度に、日本人として日本のことを外人に伝える責任感がありました。そのため、下調べや事前学習をしっかりとしました。パワーポイントを使ったプレゼンテーションでは、原爆の恐ろしさや、日本の憲法改正問題などの時事問題を学生の前で発表することができました。外国で自分の国のことを知る、と言うのはまさにこれの事か、と思いました。テストはありませんが、ペーパーがあります。決

して楽なクラスではないですが、とってよかったなあ、と思えるクラスです。

• **ENG 103: English as a Second Language**

留学生必修の授業です。留学生だけなので、みんなワイワイしながら楽しく受けていました。先生がとても良い方で、すごく面白いです。テストはありませんが、単語テストと、ペーパーがあります。

• **INT 130: Introduction to American Culture**

留学生必修の授業です。アメリカの歴史について勉強します。フィールドトリップがあり、博物館などに行きます。テストはありませんが、ペーパーがあります。

• **AS 251: Gender in Asian Culture**

こちらのクラスも、Asian Civilization と同じアドバイザーの先生です。授業内容はアジアの女性問題などについて勉強します。なぜ多くの韓国人女性は整形するのか、インド人のカースト制度や、結婚制度について、中国の纏足（てんそく）の歴史などを勉強しました。私は、日本の晩婚化や少子高齢化問題の原因をペーパーに書きました。期末テストがありましたが、エッセイ形式でした。

• **ENG 111: Introduction to Literature**

私は英文科なので、せっかくならアメリカでも英文の授業を取りたいと思い、履修しました。授業は正直、すごく難しかったです。とにかく、短編集を読んでは問題に沿ってのペーパーの提出がありました。用語テストもあります。先生は良い方で、期末テストがありましたが、留学生ということで試験内容を前もってざっくり教えてくれました。

• **SGS 215: Topics: Sexuality/ Gender**

主に LGBTQ についての授業なので、LGBT の学生が多いです。日本にはまだ無いような授業光景で、とても新鮮でした。LGBT の他に、黒人の差別問題や、銃社会などアメリカの問題についても学ぶことができます。私は、授業内で日本の “Me too” 運動についてプレゼンテーションしました。痴漢やセクハラをされても「私もされた！」と声と大にして言えない日本の文化や社会について言及しました。発表中、学生内では「ジーザス（まじかよ）」など日本の文化について驚いたようなリアクションが何度かありました。文化の違いがよくわかり、日本とアメリカを比較できる授業でした。テストはありません。

• **SOC 112: Social Problems**

アメリカの社会問題（ホームレスやドラッグなど）について学ぶ授業でした。毎回、ディスカッション形式で学生の発言が止まりませんでした。毎回の授業で話についていくのが必死でした。しかし、先生がすごく留学生に対して優しくくださり、授業後にメールなどしてくれました。テストはありませんが、ペーパーがあります。私は、アメリカの社会問題

と日本の社会問題の比較などについて書きました。

・ **JPNS 380: Teaching Assistant for Japanese**

主に、授業内で学生のヘルプをします。日本語を英語で教えることはすごく大変でした。普段から、何も気に留めずに話している母国語を、どうしてそうなの？と聞かれたら自分でもどうしてなんだろう、と考えこむこともありました。先生は日本人の女性の方ですごく良くしてくれました。よくご飯に連れて行ってもらったりしました。日本語をとっている学生は、日本に興味を待っている子達がほとんどなので友達はすごく作りやすいです。オススメの授業です。秋、春の2セメスター履修しました。とても良い経験になりました。

・ **INT 155: Permeable Borders**

メイタームという3週間ほどのプログラムの時に受講しました。このクラスは通常のクラスとは違い、活動メインのクラスでした。毎年トピックがあり、一つの壁画を作ります。今年は、LGBT のティーン達と協力して壁画を作りました。LGBT の人々が抱える問題とどのように向き合っていくかを一つの壁画にしました。日本で壁画に携われる機会はほとんどないと思うので、すごくよかったです。コミュニケーションが必要な授業なので、自然と友達ができ、英語を話す機会も多いです。1万円ほどの費用がかかります。

◆ **授業、レポート、定期試験**

授業は日本とは全く違います。まず、学生達の授業への姿勢が全く違います。寝ている人、ケータイを触っている人はほとんどいません。学生の発言や、ディスカッションが多く、先生が授業を進めるのではなく、学生が授業を進めていきます。レポート（ペーパー）や読み物、プレゼンテーションなど課題は山ほど出されます。現地の学生と同じ条件で、同じ締切日時までに間に合うのは最初の方はすごく苦労しました。課題のことで頭がいっぱいになるほどでしたが、いつも現地の友達が助けてくれました。試験があるクラスは、先生によっては電子辞書の使用を許可してくれます。また、別室受験も可能な場合もあります。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

Cosmos という留学生と交流するクラブに入っていました。一緒にゲームやカラオケをしたり、映画を見たりしました。春学期から、大学近くの Boys& Girls というアフタースクールに週に1回、ボランティアとして参加していました。アフタースクールは、学童のようなところで親が迎えに来るまで子供達が一緒に遊ぶところです。私はそこで子供達の宿題を見たり、本を読んであげたり、一緒にスポーツなどしていました。普段の生活で、現地の子供達と関わることはないので良い経験でした。

⑧ **現地ででの住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について**

私は、PEG ドームという一番新しい寮に住んでいました。基本的に PEG ドームは高校を

飛ばしてきた 20 歳以下の子達が住む寮なのでセキュリティーがしっかりしています。留学生は PEG ドームの 4 階に住むことになります。なので 4 階には、日本人、韓国人、台湾人、インド人、そしてアメリカ人がいます。セキュリティーがしっかりした寮なので、1 階から 3 階は夜 11 時以降になると外に出れないようになりますが、4 階は大丈夫です。何時でも外へ出ることができます。部屋は相部屋なので 1 人のルームメイトを持つことになります。私は、秋学期が台湾人で春学期がアメリカ人でした。大学内に大きなダイニングホールがあって朝昼晩（土日は朝昼兼用のランチと夜）の 3 食をそこで食べることができます。もうすでにミールプランに入っているの、いちいちお金を払う必要はありません。学生証を提示するだけで中に入れます。ご飯は総合的に想像していたよりは断然美味しかったです。寿司や中華、カレーなどもできます。寮やダイニングホールのご飯で困ったことはないです。また寮にキッチンもあるので、自分で料理することもできます。

⑨ 長期休暇の過ごし方

秋休みに台湾人、韓国人、日本人でバスに乗ってワシントンに行きました。冬休みは、寮が閉まるので、日本人の一緒に来ていた友達と 1 週間シカゴに、2 週間ニューヨークに行きました。春休みにはフロリダのディズニーワールドや NBA、ONE OK ROCK のライブに行きました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

特に就職活動は何もしていません。1 つ上の友達はボスキャリというボストンで開かれる会社合同説明会に行っていました。私は、帰国してから夏のインターンなどのエントリーが始まったので、留学中はこれといって何もしていません。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

MBU はパーティーやイベントがすごく大好きな大学です。ハロウィンパーティー、バレンタイン、カラオケパーティー、クリスマス、ダンスパーティー、ビンゴ、などいろんなパーティーが大学内で開催されます。大学が DJ やミュージシャンを呼んで開くパーティーもありました。ほとんどの学生が寮に住んでいるので、夜遅くまで一緒に映画を見たり、話したりするのが楽しかったです。寮生活が一番思い出に残っています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

授業や課題が辛かったです。留学生のために、話すスピードや授業のスピードを変えるわけにはいけないので、はじめの方は授業のスピードに圧倒されました。次の授業に何をしなければ良いのかもわかりませんでした。なのでいつも授業後に先生の所へ行って、今日の授業

のおさらいや次の課題について聞いていました。最後まで 100 パーセント授業内容を理解することは難しかったですが、必然的にスピードには慣れていきます。また勉強以外で辛かったことは、他人との共同生活です。寮生活はすごく楽しいですが、他人と生活することはすごく難しかったです。十人十色で生活スタイルは違うので、その違いからどれだけ理解しあっても戸惑うことは多くありました。ましてや、母国語、文化、歴史の違う人と一緒に住むことはすごく難しかったです。ですが、その分本当にいい勉強になり、良い経験になります。私が成長できたと感じる 1 つの理由はこの共同生活があったからだと思っています。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

驚いたことはたくさんあります。まずアメリカは移民の国なのでいろんな人種がいます。また LGBT の学生がすごく多いです。「私はバイセクシュアルだから。」とか「私はゲイだから。」というのを自己紹介のようにさらっと言える文化です。言われた時、最初は戸惑いましたがだんだん「そうだったんだね。」と何の戸惑いもなく聞くことができるようになりました。また留学生同士すごく仲が良かったので、毎日のようにキッチンで自分たちの国のことについて話しました。そこでわかったことは、日本、韓国、台湾は文化的に似ていることが多かった様に感じましたが、インドとは全く違う様に感じました。インドは州ごとに言語が違うので、1 人のインドの友達が電話で話している言語を「あれなんて言ってるの?」と、もう 1 人のインドの友達に聞いても「私はあの言語知らないからわからない」と言われたのには驚きました。またインドの結婚では 80 パーセント以上が親が決めた結婚で、恋愛結婚はあまりないし、それはほとんど祝福されないことにも驚きました。また、韓国の友達に日韓関係について尋ねたとき、韓国ではまだまだ反日教育で、私以上に日本のことを知っている部分があったり、「日本の歴史が大嫌い。でも日本の文化はすごく好きだから複雑なんだ。」と言われたことも驚きました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

MBU は黒人学生の割合が高いです。共学になったばかりなので女子学生の割合も比較的高いです。黒人学生が多いので、授業で黒人の差別問題に触れる機会も多く、黒人の生の声も聞くことができました。すごく貴重な機会だったと思っています。大学の規模が小さいので、少人数で受ける授業がほとんどです。なので先生と学生の距離も近くサポートもしっかりしてくれました。また学生を楽しませる様なイベントも多かったところが、勉強もそれ以外にも充実できたところです。生活面において悪かった点はほとんどありませんが自然豊かな

キャンパスなので花粉症の方は少しきついと感じるかもしれません。それ以外に関して悪かったと思う点はありません。良い大学だと胸を張って言えます。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは絶対に必要だと思います。基本的に大学の図書館は夜の 12 時までやっていますが、パソコンは必須だと思います。また携帯ですが、私はソフトバンクのアメリカ放題を利用しましたが全く機能しなかったので急遽電話して、使える様にしてくれました。ですが色々とめんどくさかったのでアメリカ放題はオススメしません。現地で SIM カードを購入した方がいいかもしれません。携帯に関しては、MBU の国際課の方がヘルプしてくれると思います。私は、荷物が多いのが嫌だったので必要最低限の衣類、下着、常備薬、化粧品類、電子機器、勉強道具などを持っていきました。衣類は最後捨てて帰ってもいい様な服を持っていきました。足りないものは全て現地で買おう、という考えだったので荷物は最小限で行きました。服も現地の大学の近くに古着屋さんがあったのでそこで買っていました。一つ 120 円ぐらいだったと思います。到着直後のオリエンテーションで、現地のスタッフの方がウォルマートという大きなスーパーに連れて行ってくれるので、そこで生活物資を買うことができます。ウォルマートへは、その後も寮のレジデンス・アシスタントの方や、友達に度々連れて行ってもらっていました。アメリカの生理用品などは日本のものよりクオリティーが劣りますが、慣れないのは最初だけで最後の方は何の不自由もなく使用していました。下着類はアメリカサイズですごく大きいので、自分のサイズにあった日本のものを持っていくことをお勧めします。あとは、常備薬、化粧水は日頃から使っている日本製のものを持っていくことをお勧めします。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

最初、現地の大学に向かうまでにアトランタでトランジットした際、空港にあったファストフードでお昼ご飯を注文しましたが、言っていることがわからず注文していたのと全く違うのが来ました。その時、これから大丈夫なのかなあ。と不安になりましたが、約 1 年の留学生生活を終え、日本に帰る前にハワイに寄って帰ったのですが、フライトが全て遅延し 3 日間ホノルル行きは無いと言われました。どうにかしてくれ、とスタッフとやり取りをし結局は無事にハワイに着くことが出来ましたが、今度はキャリーバックが届かないという事態が発生しました。すぐにカウンターへ行き、事情を全て話し、荷物が着いたらすぐに泊まっているホテルに届けてもらえることになりました。もちろん説明は全て英語です。1 年を経てトラブルを英語で対処できるようになりました。また、帰ってから今まで自信がなく一歩踏み出せなかったことを、「やってみなきゃ何も分からないし、何も始まらない。何でもやってみよう！」と思える様になりました。また知らないことを知りたいと、異文化にますます

す興味を持つ様になりました。いろんな意味で自分の視野が広がり、心も広がったと感じます。それは、留学を通していろんなことを経験し、自分に自信をもつようになったからだと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

もし、留学をしたいと少しでも思うのなら私は絶対にすべきだと思います。それは協定留学に関わらずです。短期の留学でももちろん良いと思います。しかし協定留学では、学校が提携した大学に行くことができるのでサポートもしっかりしている上に、費用をかなり抑えることが出来ます。私がこの1年の留学で学んだことは本当に数え切れないほどあります。日本で普通に過ごしていて得る10年分の知識や経験の量を1年に凝縮した様な留学でした。今では世界中に友達ができ、世界中の人と意見を交換することが出来ます。留学で出会った友達は一生忘れることはないと思います。留学は確かに辛い時もあります。日本で5分でできることが、異国では余裕で1時間以上かかることもあります。悔しい思いをすることも絶対にあると思います。ですが、助けてくれる人は必ずいます。「How are you? (元気?)」や「You'll be fine! (大丈夫だよ!)」、「Well done! (よくやったね!)」などの何気ない言葉がすごく温かく感じ、私はその言葉に何度も助けられました。人の小さな優しさがこんなにも温かいものなんだと気づくことも出来ました。語学力だけをメインにみっちり勉強する留学もあると思いますが、協定留学など長期の留学は語学だけを学ぶのではなく、それよりももっと大切なことを学ぶことができると思います。協定留学は私の人生の中でずっと大きな部分を占めていくことになると思います。4年間の大学生活が100パーセント充実したものに変わると思います。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

明確な将来の目標や夢は、まだ模索中です。ただ、異文化と触れ合える様な仕事に就きたいと強く思っています。

V. 写真



寮の廊下で留学生だけでとったハロウィンパーティーの写真です。夜にダイニングホールでハロウィンパーティーがあるのでみんなで仮装しました。仮装グッズはウォルマートという大きいスーパーで買いました。楽しかったです！



Junior Dad というパーティーで3 回生のためのパーティーでしたが、留学生は特別に招待してくれました。現地の学生たちは親が来て、花やリングをもらったりしていました。感極

まって泣いている人もいて、感動しました。みんなドレスアップして綺麗でした。



クリスマスシーズンになると図書館の前に大きなクリスマスツリーが飾られます。みんなその前で写真を撮ったりしていました。日本の留学生5人でツリーの前でソーラン節を踊りました。すごく思い出に残っています（笑） 後ろの白い大きな建物は毎日通うダイニングホールです。



メイタームで履修した Permeable Borders の壁画です。LGBT の明るい未来を込めてみんなで一生懸命に協力し合い一つの壁画を作ることが出来ました。私は、背景がピンクのバルーンを担当しました。Harvey Milk というアメリカ合衆国で初めて自らゲイであることを明かし選挙で選ばれた公職者です。



卒業式の写真です。仲の良かった友達が多く卒業していき、この日が MBU に居れる最後の日だったので涙が止まりませんでした。卒業していく友達が誇らしかったです。

S. N. 英語英文学科・2 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

高校生の頃から短期留学の経験はあったのですが、長期の留学の経験はなくいつかはしてみたいと漠然と考えていました。また、自分の学部の勉強以外の分野にも興味を持っていたので海外の大学に行って英語を使いながら新しい分野の知識を増やしたいと考えていました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

協定留学には IELTS のスコアを使うことを考えていたので、IELTS の教材を買って家で勉強したり、学校の課題をきっちりこなしていました。

また Speaking はアルバイト先で外国人の方達とお話する機会があるので積極的に話していくようにしていました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

協定留学が決まってから積極的に英語学習の時間を確保するようにしていました。また、叔父の海外出張についていきオーストラリアで2週間語学学校に通ったりもしました。

その間にも留学に向けてたくさん書類を提出しなければならなかったです。

提出期限が迫って焦ったり、ビザの手続きが思った以上に時間がかかったり、予防接種の予約が取れなかったりと自分が思っていた以上に手間と時間がかかり、国際課の方にも何度か迷惑をかけてしまいました。留学に関する書類等は何事も早め早めに用意していくことが大切だなと実感しました。

④ 現地到着後

MBU のオリエンテーションの前日の夜にシャーロットビル空港に到着したので空港近くのホテルに一泊しました。次の日の朝 MBU の先生が私たちを迎えに来てくれました。

MBU では最初にオリエンテーション期間が1週間設けられ、毎日違うプログラムで私たちを迎えてくれました。留学生1人1人にアンバサダーの学生が割り振られその子達はとてもフレンドリーですぐ友達になりました。

唯一のトラブルとしては、現地についた際私ともう1人の学生はソフトバンクの携帯をっており、アメリカにつくと自動的に現地の Sprint という回線に繋がるはずだったのですが、全く繋がらなかったため1日目の夜、ソフトバンクを説得し通信料を携帯会社側がカバーしてもらうようになりました。ソフトバンクのアメリカ放題を使おうと考えている方は難しいと思います。他の子達は SIM カードを買いに行ったりしていました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

◆ 授業内容、課題、試験

Fall Semester からスタートの留学だったので、語学学校には行かずそのまま現地の学生達と一緒に授業を受けていました。

授業のスタイルは学生みんなが参加型で意見を出し合い教授と問題について話し合いました。授業によってはグループワークを好む先生やプレゼンテーションがたくさんあるクラスなど様々でした。日本の学校に比べ課題の量がびっくりするくらい出されるので、最初はこんな量絶対終わらへん！と思いながらやっていました。試験が近づいてくると一つの授業につきペーパー、プレゼンテーション、Final Exam などが山ほどやることが迫って来て忙しくしていました。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

大学自体は歴史があって伝統のある学校ですが校舎はとても綺麗で快適でした。構内のどのエリアでも Wi-Fi が通っておりとても便利でした。

図書館も夜遅くまで開いていたり学生達が勉強しやすい環境を作ってくれていました。

学校の周りのはのどかで、学校から出ると小さいダウンタウンがありレンガ造りになっていてとても写真映えます。

ダウンタウンにはカフェや映画館、シェイクスピアの劇場があったりと休日に遊びに行けるようなところです。

また、15分ほど歩いた所に Food Lion があったり、車を持ってる友達がいると学校から10分ほどの Walmart にもいけます。

◆ 履修科目

・ ENG103 English as a second language

Fall Semester で留学生の必修科目です。先生は陽気な先生で留学生のコーディネーターもしている先生なのでとても安心でした。授業内では Essay の書き方などを教えてもらいました。授業の他にも常に私たちの留學生活の悩みなどを聞いてくれていたのでとても良い授業でした。

・ SWK153 Introduction to Social Work

アメリカの社会システムについて学ぶ授業です。アメリカの保険制度、貧困問題、メンタルヘルスケア、家族問題など様々な社会問題や制度について満遍なく学んでいきます。授業内では学生達はどんどん手をあげて発言したり、近くの席の子達と話し合ったりとアクティ

ブな授業でした。

先生は課題を多く出される方で何度も泣きそうになるくらい大変でしたが、わからないことは先生にメールで質問したり、研究室まで質問しに行ったりしていました。

• **INT130 American Culture**

この授業も留学生の必修科目でコーディネーターの先生が授業をしていました。アメリカの歴史や人種問題などを学びました。他にも field trip で世界遺産の Monticello にみんなでいったりもしました。

• **ART112 PAINTING 1**

1 コマ 3 時間あるペインティングの授業で、テーマに沿った絵を描きます。色使いが斬新な子やピカソみたいな絵を描く子もいたので楽しかったです。個性的な子が多くお互いの絵にアドバイスをしていました。

各テーマのはじめに 3 時間 Lecture をしてから何週間かけて絵を完成させ、みんなで絵の総評を話し合いました。

• **JPNS101 BEG JAPANESE**

日本語クラスの teaching assistant をしました。主に授業は先生が進めその間に学生達のサポートをしていく感じでした。授業外でもテスト前には学生達と study session をしたりしてみんなの日本語学習のサポートをしていました。

マクドナルドの日本語の発音が面白いみたいで何度も笑っていました。

• **ENG111 INTRODUCTION TO LITERATURE**

この授業は私の専攻の科目なので迷わず履修しましたが、とても大変でした。毎週小説の短編を読んでそれについて授業内で知識を深めていく感じでした。全部でエッセイ 4 回の提出と小テスト、期末試験などがありとても濃い科目でした。教授は MBU では長く教えてきている先生なので留学生の私たちがちゃんと理解できているのか度々サポートしてくれました。私も課題の件でわからなかった時などは先生にメールでしょっちゅう質問していました。

• **ART212 PAINTING II**

Fall Semester よりも専門的な絵を描いていく授業です。PAINTING 1 よりも人数が減って少人数の授業になったので先生と距離が近く 1 人 1 人に絵のアドバイスをしてくれました。私も Fall Semester の時よりも先生と話す機会が多くなってとても良かったです。また、PAINTING 2 ということもあり、クラスにはとても専門的な絵を描いている子がいてとても勉強になりました。時には art studio に残って居残りで絵を描いたりしていました。私は 1 人で黙々と絵を描いている時間がとても好きでした。

・ THEA111 VOICE, DICTION, & ORAL READING

私はみんなの前で発言することや、プレゼンテーションすることが大の苦手だったのでその苦手を克服したいためこの授業を履修していました。

この授業は毎週プレゼンテーションがあり、みんなの前で1人ずつ発表していくスタイルで最初は本当に苦痛でしかなかったのですが、みんな私の発表のフィードバックをきちんとしてくれるのでとても有り難かったし、先生も実際に舞台上で演劇をしている先生だったのでプレゼンテーションをする時の発声の仕方、目線、立ち振る舞いなど多くのことを細かく教えてくれました。私自身、授業の後半になると発表が苦ではなくなっていくようになりました。

・ ED115 FOUNDATIONS OF EDUCATION

アメリカの教育方法や歴史について学ぶ授業です。この授業は留学生1人で受けていた授業でもあり、グループワークが多く最初はとても不安で憂鬱でした。授業中はそれぞれの出身の高校などのエピソードが聞けたり、日本の学校とは全く違うなど発見することがあったりと楽しく学べました。またクラス全体が仲良かったのでみんな日本の学校はどうなの？など私にも話を振ってくれたり、私の発言にもしっかり耳を傾けてくれました。最初は不安でいっぱいですが授業にいくのも憂鬱だったのがみんなと仲良くなって授業が徐々に楽しくなってきました。教授も私が質問に行くといつでも親身に対応してくれていました。

・ COMM115 MASS COMMUNICATION

May Term の1か月間にとった授業です。May Term は1コマ3時間の Lecture で、こちらの授業も留学生は私1人だったので最初は大変でした。マスコミについての歴史やパイオニア、進化、産業について3時間みっちり興味があることを授業で学べていたので大変でしたがとても楽しかったです。ここでは毎週エッセイとテストがありましたが、授業内で友達になった子達が私の勉強をサポートしてくれました。プレゼンテーションの練習にも付き合ってくれたりとても優しい学生達と一緒に勉強できました。

◆ 授業、レポート、定期試験

授業のスタイルは教授によって変わってきますが、日本の授業に比べどの授業も学生参加型のものが多いと思います。グループワーク、プレゼンテーション、グループプレゼン、ディスカッションなどが多いです。なので授業中寝てる学生や携帯を触っている学生はほぼいません（朝ごはんやおやつを食べてる子は普通にいました。文化の違いかな？）。みんな授業は積極的に参加する子が多いです。

それぞれのセメスターが始まる前に自分たちでネットで教科書を買わないといけないのですが、アメリカの教科書はとても分厚く価格がとても高いのでいつもいろんなサイトで検

索して中古の安くて状態が比較的いいものを買うようにしていました。

エッセイはどの授業でも基本的に課題として出されます。みんな一つ二つはエッセイの課題が常にあるような状態でした。定期試験に入ってくると学校全体が勉強モードに入るため図書館で勉強する子や study session をしている子が増えます。私は毎回泣きそうになりながら定期試験や Mid term のテストを迎えていました。ですが、現地の学生達が勉強を助けてくれたり、先生達も質問すればとても親切に対応してくれていました。わからないことや少しでも疑問に思ったことは積極的に質問して先生とコミュニケーションをとっていくことが大切だと思います。MBU の学生や先生はとても親切な子が多いのできっと留学生の皆さんの手助けになってくれると思います。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブは COSMOS というクラブに入っていて、たまにみんなで映画を見たりカラオケパーティーをしたりとても自由なクラブでした。

課外活動では1月にワシントン D.C.でおこなわれる大規模な Woman's March に参加しました。それぞれ女性の権利を訴えるものの他、LGBTQ への理解を訴えたもの、反トランプを表したプラカードなどを持ちながらワシントン D.C.を歩きます。そこではリアルのアメリカ人の声が聞くことができたので一生分の経験をしたと思います。

Spring Semester になると週に1回のボランティアをしていました。ダウンタウンにある放課後学童保育の施設で子供達の面倒を見ていました。そこでは今まで接していなかった小学生達と触れ合ういい機会になったし、日本の文化との違いをそこでも発見することができたのでいい経験になりました。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

寮は PEG という MBU 内で一番綺麗な所に住んでいました。留学生は PEG の4階に住んでおり、2人で一部屋を使っていました。だいたい、夜になるとみんなリビングでくだらない話をして笑ったり、休日には映画を見たりしていました。たまにシャワーが冷水しか出ない時があったり、原因不明の激臭が立ち込めていたりすることもありましたが、それ以外はとても快適な寮でした。図書館の隣にあるのでクラスや食堂まで3分でいけます。

食堂は毎週水曜日に寿司が出たり、中華料理が出たりとバラエティーに富んだメニューがありました。ベジタリアンの子のためにサラダバーもあったり、アイスも食べ放題なので食べたいだけ食べれます。また MBU の学生証に50ドルチャージされているので学校内のスターバックスでよくドリンクを買っていました。

留学生1人につき一家庭フレンドシップファミリーが紹介されました。時々ファミリーの方達にお家に招待してもらったり、休日にご飯を食べに行ったりしました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

Fall Break は台湾、韓国、日本の友達とワシントン D.C.に行きました。Winter Break は寮が閉まるため日本の友達と 1 週間シカゴに行き、2 週間ほどニューヨークに行きました。Spring Break は台湾と日本の友達とフロリダに行ってきました。日本に帰国する前はハワイに 1 週間滞在した後に帰国しました。どの旅行も自分たちで旅券、ホテルをとっていたのでほぼバックパッカーのような旅行をしていました。どれも若い時にしかできない経験なのでとても楽しかったです。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

留学に行った当時はまだ 2 回生だったので特に就活はしていませんでした。ですが、留学に行く前の学生生活で頑張ったこと、取り組んだことを忘れないうちに特に勉強面、アルバイト、学外活動に積極的に活動していたのでそれらをノートにまとめておきました。帰国すると 3 回生の秋学期で就活やインターンが始まることを見越して少しずつ業界を絞ってみたい、興味がある企業について調べてみたい、日本にいたくてもできることは少しずつやっていました。

他には学校の Work Shop、Social Worker の講演会に行ったり、ボランティアなどの社会活動にも積極的に参加しました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しかったことは数えきれないほどあるのですが、様々な国からきた学生たちと一緒に生活していったのは毎日新鮮で楽しかったです。

授業や食堂などでどんどん友達が増えて行くのが楽しかったです。みんな友達の友達は友達みたいなスタンスだったのですぐ友達が増えました。

MBU はよくパーティーが開かれるのでみんな日々の勉強から解放されたように歌って踊ります。とても新鮮で楽しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

やはり課題の量が日本の大学と比じゃないくらいに多いので毎日追われていました。明後日までに 100 ページくらい読まないといけなかったり、エッセイを描いても書き直しと言われたり、小テストの成績がボロボロだったり、グループワークがうまくいかなかったときはかなり落ち込みました。しかし、次は頑張ろうという気持ちで次の課題に取り組むと成功した時に大きな達成感を得ることができました。どんどん自分の経験値が上がっていくみたいで嬉しかったです。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

基本的にアメリカ人は Lazy な子が多いので彼らとグループワークをしようとなると凄く大変でした。締め切りのギリギリまで動き出さないし、ミーティングにも全員は集まらないので大変苦労しました。

約束の時間には基本的に来ないので最初は何度も戸惑いましたが、徐々に慣れてきました。MBU の学生は特にアフリカンアメリカンの学生が多く、音楽があればみんなどこでも踊っていました。その雰囲気はとても好きでした。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

留学生たちへのケアがとても手厚いです。最初のオリエンテーションやみんなにアンバサダーがいることなど、とても安心します。

先生達も留学生の生活面で不便なことがあればすぐに相談にのってくれるし、解決しようとしてくれるので心強いです。

悪かった点といえば、凄く田舎なので近くに気軽に行けるショッピングモールなどがないことです。どこに行くにも車が必要になります。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンの持参は必須です。日本食も持っていてもいいですが、いざとなれば Amazon でなんでも手に入るので私はどちらでもいいと思います。

あとは自分が日本で飲みなれている薬を持っていった方がいいと思います。私の場合は喘息持ちだったのでいざとなった時の薬は持って行っていました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学後、前のアルバイト先に戻ったのですが外国人の方達とお話しする際以前よりいっぱい話せるようになりました。

英語で対応するたびに、私の英語を褒めていただくことが格段に増えました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

協定留学に向けての勉強は本当に大変だと思います。今経験した苦労は必ず将来の自分に返ってきます。私は英語力こそ協定留学に必要ななってくるとは思います、そのためには目標に向かって長期的に頑張れることこそが大切になってくるとは思います。

辛いこと、諦めそうになることがたくさんあると思いますが、諦めず留学を掴んでください！

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

今 3 回生なのでまだ本格的には就活は始まっていないのですが、人々のつながりを大切に
した職業につきたいと考えています。

ただ“留学を経験した”という大学生は山ほどいます。しかし私は留学を経て何を学んだの
か、どういう考え方を得たのか、自分自身がどういう人間なのかということを伝えていけた
らいいなと考えています。

V. 写真



春になるとハナミズキが咲いてとても綺麗でした。



留学生とアンバサダーの子達と一緒にシャーロットツビルにあるモンティチェロに field trip
に行った時の写真です。



ワシントン D.C.に旅行に行った時のルームメイトとの写真です。



星空がとても綺麗なので、食堂の前の丘でみんなでお菓子とジュースを持っていき、Star Gazing していました。

MBU の周りは田舎なので夜空が澄んでいてとても綺麗でした。



同女に 2 回留学に来てくれた友達と。

彼女との初めての出会いは同女でしたが、今度は私たちが留学生として MBU で彼女と再開できました。